

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス てあてるの芽富士		
○保護者評価実施期間	令和8年3月5日		～ 令和8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年3月5日		～ 令和8年3月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が自ら通所したいと思ってもらえる場所である。 保護者が安心して利用できる場所である。	職員一人一人が児童の特性を把握したうえで関わり、楽しく過ごせるよう配慮している。 専門的支援を通して、一人一人の成長に繋がられるよう、内容を考えている。	療育や遊びの幅を広げられるよう、内容の見直しや環境調整を図る。
2	公園やお店など、有効活用できる地域資源が近くにある。	学校休業日の午後に公園に出かけ、体を動かすなどして気持ちを発散できるようにしている。 土曜日には、近くの駄菓子屋に行き、買い物体験をしている。	定期的に外食体験の機会を設けるなど、地域資源の活用機会を増やす。
3	児童はもちろん、保護者に対する支援に積極的である。 職員全員が保護者に対して丁寧に接することができる。	児童の様子だけではなく、保護者の状況の聞き取りを積極的に行い、気持ちの解消や課題解決の糸口をともに探すようにしている。 保護者の困り事に対してすぐに話を聞き、迅速に対応することを心がけている。	保護者だけではなく、きょうだい児の様子にも気を配るよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の児童と接する機会が少ない。	一人一人の能力向上に重点を置いた支援を行っていること。	地域で開かれているイベントへの参加。
2	保護者同士の交流の機会がない。	保護者同士の交流を望まない保護者もいることを考えると、積極的に交流機会を設けることが難しい。	保護者参加型の事業所イベントを開く。
3	事業所で行っている防災訓練があまり周知されていない。	防災訓練を行ったことより、生活の様子を優先して伝えていたこと。	事業所で行うべき活動については、保護者にきちんと伝えるようにする。